

チケット

[参加方法]

一部予約不要のプログラムを除き、ご予約は、E-mail、または、WEBサイトの予約フォームよりお申込みください。

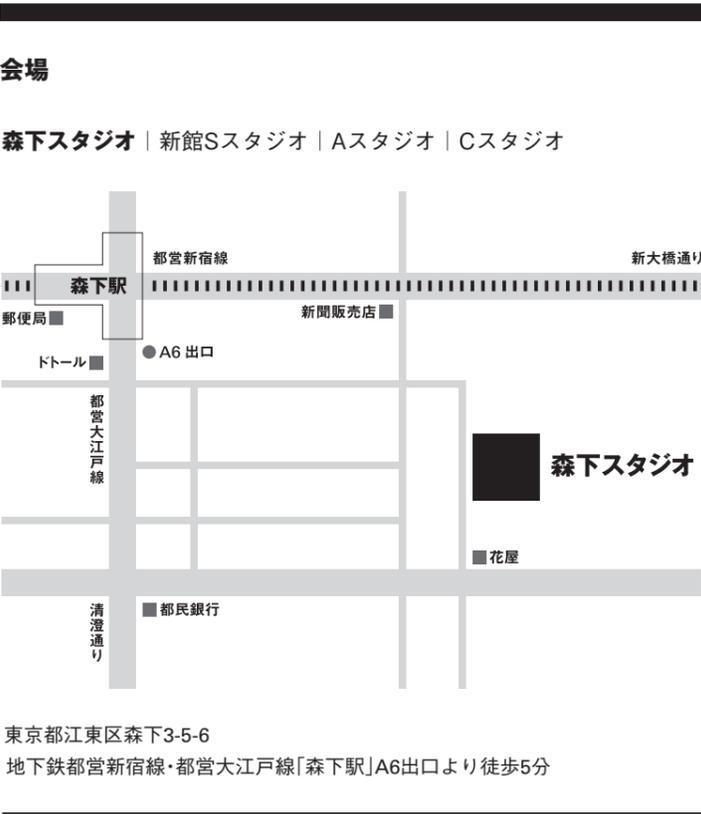
E-mailの場合、1. プログラム名 | 2. 日時 | 3. 人数 | 4. 氏名 | 5. 連絡先 (E-mail, 電話番号) | をご記入の上、お申込みください。

[申込先:WWFes事務局]

E-mail | bodyartslab@gmail.com (チケット申込み専用アドレス)

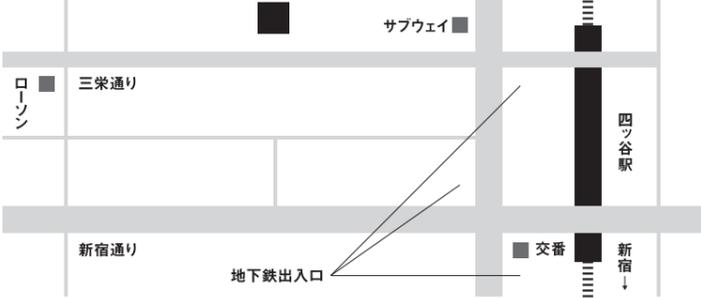
予約フォーム | <http://bodyartslabo.com/wwfes2012/festival/form>

- 一部予約不要のプログラムを除き、当日受付を行なう予定ですが、事前のご予約をおすすめします。事務局からの返信をもってご予約の完了となります。
- お支払いは、イベント当日受付でのご清算となります。
- 原則として、お申込み後のキャンセルは受け付けておりません。やむをえない事情でキャンセルされる場合は、事前のご連絡をお願いします。



GALLERY OBJECTIVE CORRELATIVE

GALLERY OBJECTIVE CORRELATIVE



東京都新宿区四谷1-5 近畿大学国際人文科学研究所

東京コミュニティカレッジ 四谷アート・ステュディオム1F

ギャラリー・オブジェクティブ・コレラティブ

- 「四ッ谷駅」JR中央線四ッ谷口より徒歩3分、東京メトロ南北線2番出口より徒歩3分、東京メトロ丸ノ内線赤坂口より徒歩5分



トラジャル・ハレル

Trajal Harell

イェール大学卒業後、振付家、キュレーター、編集者、オーガナイザーとして、ニューヨーク/ヨーロッパを拠点に精力的に活動を続けている。現在、ニューヨークのダンス機関、ムーブメントリサーチの特別プロジェクトディレクター、及び同機関の発行紙『ムーブメントリサーチ・ジャーナル』のチーフ編集者を務める。アーティストによるキュレーションやエデュケーションプログラムの提案を推進し、ニューヨークのダンスの現場改革に貢献。

振付作品は、ニューヨークのDance Theater Workshop、The Kitchen、P.S.122の他にフランス、オランダ、ベルギー、オーストリア、ドイツ、ポーランドなどヨーロッパの主要な劇場、インバルスタンツ、アヴィニョン・ダンスフェスティバル等のフェスティバルで上演。また、現代アートの枠組みでThe New Museum (ニューヨーク)、Fondation Cartier (パリ) など美術館での作品発表も精力的に展開している。2010年には Dansapce Projectで6週間のパフォーマンス・プラットフォームのキュレーターに任命され、その中に、若手アーティスト育成プログラムThe Adventureを取り入れ、イニシアチブをとる。

<http://betatrajal.org>

*トラジャル・ハレルは、公益財団法人セゾン文化財団の2011年度「レジデンス・イン・森下スタジオ ヴィジティング・フェロー」として招聘されます。5月11日(金)に森下スタジオにてパブリックトークを開催予定です。

プログラム・ディレクター:山崎広太

プログラム・コーディネーター:佐藤美紀

プログラム・コーディネーター/エディター/宣伝美術:印牧雅子

国際ナショナルプログラム・コーディネーター:西村未奈、生島翔

国際ナショナルプログラム・アシスタント:三石祐子

インターン:川田夏実、櫻井ことの、齋藤コン、南千尋、佐々木智子、北條知子、下田伊吹、橋本玲美

宣伝美術協力:中山雄一朗



デイビッド・ベルグ

David Bergé

主にヨーロッパで活躍する、振付、写真、パフォーマンスの境界を活動テリトリーとするベルギー在住のアーティスト。写真展の他に、パフォーマンス・インスタレーションや振付を巻き込んだ写真投影プロジェクトなどをウィーンのTanz-Quartier、ブリュッセルのWorkSpaceやベルリンのNETWERKなどを中心に発表している。近年では、DD Dorvillier、Trajal Harrell、Mark Canrunxtなど振付家とのコラボレーションが注目されている。

<http://www.papa-razzi.be>

後援:Flemish Authorities

マルテン・シュパンベルグ

Mårten Spångberg [予定]

スウェーデン、ストックホルム在住の振付家。実験的な試みや多様な形式・表現方法を取り入れた創作プロセスにより、振付という領域の拡張に取り組んでいる。1994年よりパフォーマーとして活動を始め、1999年よりソロからグループ作品、ウィリアム・フォーサイス/フランクフルトバレエ団などへの振付を含む作品発表を国内外で精力的に行なう。

ストックホルム・バナシアフェスティバル(1996ー2005)、Body Currency/ウィーンフェスティバル(1998)、リスボン・ケルケンキアン財団CAPITALS、フランクフルト・国際ナショナル・サマー・アカデミー(2002, 2004)など国際フェスティバルや機関のディレクターを務める。2006年には、ネットワーク・オーガニゼーションINPEXを立ち上げ、出版プロジェクト"The Swedish Dance History"を監修。雑誌「Aftonbladet」『Dagens Nyheter』にダンス批評家として寄稿(1990ー97)し、2011年に初の著書『Spangbergianism』を出版。

人材育成にも貢献しており、過去には、P.A.R.T.S(ベルギー)、Ex.e.r.ce(フランス)、インバルスタンツ(オーストリア)、ストックホルム演劇大学でダンス理論および実技の講師を勤める。2008年、ストックホルムダンス大学振付科のMAプログラム(修士課程)ディレクターに就任。

<http://martenspangberg.org>

Whenever Wherever Festival 2012 | Part 1 スタッフ

プログラム・ディレクター:山崎広太

プログラム・コーディネーター:佐藤美紀

プログラム・コーディネーター/エディター/宣伝美術:印牧雅子

国際ナショナルプログラム・コーディネーター:西村未奈、生島翔

国際ナショナルプログラム・アシスタント:三石祐子

インターン:川田夏実、櫻井ことの、齋藤コン、南千尋、佐々木智子、北條知子、下田伊吹、橋本玲美

宣伝美術協力:中山雄一朗

5.15—6.6 Festival | 7.22—8.5 Education

Body Arts Laboratory | <http://bodyartslabo.com/wwfes2012>

Whenever Wherever Festival 2012

Part 1 | Festival*

公演・イベント

5月15日[火]ー6月6日[水]

Part 2 | Education

クラス・ワークショップ

7月22日[日]ー8月5日[日](予定)

会場:森下スタジオ

(一部プログラムを除く)

企画/主催:

ボディ・アーツ・ラボラトリー

助成:

公益財団法人セゾン文化財団・

東京都芸術文化発信事業助成(申請中)

協力:

近畿大学国際人文科学研究所

四谷アート・ステュディオム

スタジオ アーキタンツ

お問い合わせ:

ボディ・アーツ・ラボラトリー

bal@bodyartslabo.com

090-4069-7719

<http://bodyartslabo.com>

[twitter@bodyartslab](https://twitter.com/bodyartslab)

[関連情報]

- BALリサーチ | インタビュー/批評/レポート

<http://bodyartslabo.com/research>

ー

*一部エデュケーション・プログラムあり。

Whenever Wherever Festival 2012

アーティストが主導するダンス・オーガニゼーションの提案としてはじまったボディ・アーツ・ラボラトリー(BAL)。いわば、その運動体としての形態(プラットフォーム)を試行するかたちで毎年行ってきたフェスティバル、Whenever Wherever Festival(WWFes、ウェン・ウェア・フェス)が4年目を迎えました。

WWFesは舞台表現に限定されない身体芸術をめぐる環境(インフラストラクチャー)にはたらきかけ、対話の場を開き、その深化を目ざして、創発的なコミュニティのあり方を描く実験を重ねてきました。そのなかで、アーティストや研究者ら多くの実践者との協働が実現しました。

そうした歩みを踏まえて、WWFes 2012は、公演・イベントを中心とするPart 1(5月ー6月)と、クラス・ワークショップ(エデュケーション[教育]・プログラム)が中心のPart 2(7月ー8月)の二期に分けて開催します。

- Part 1では、アーティストによるオーガ

ナイズに共振する、海外からの3アーティスト(予定)の日本でのリサーチ活動をWWFesに接続し、紹介する初めてのプログラムを実施します。そのほか、BALの提案から発するラウンドテーブル、そして、世代・ジャンル間を横断するエクステンジ/コミュニケーション・プログラムを特徴とするパフォーマンスなど、計12のイベントを行ないます。

- Part 2のエデュケーション・プログラム

は、オハッド・フィショフ(パトシェバ舞踊団)ほか多彩な講師を迎えて開講します。エデュケーションにおいても、WWFesは、アーティストが自らの活動やその技法について省察する土壌を育み、創作に伴うコミュニケーションをサポートすることを指針とします。(詳細は決定次第、WEBサイトなどで発表します)

Part 1 | Festival

インターナショナル・

リサーチプロジェクト |

アメリカ・ヨーロッパからの

アーティストによる公演・

リサーチ/ワークショップ

WWFes 2012では新たに、海外から

の3アーティスト(予定)によるプロジェクトを実施します。ニューヨークからトラジャル・ハレル(振付家、

キュレーター、『ムーブメントリサーチ・ジャーナル』編集長)、ハレルとの共同作品も展開するデイビッド・ベルグ(振付、写真、パフォーマンス)、ストックホルムからマルテン・シュパンベルク(振付家、批評家、ストックホルムダンス大学振付科MAディレクター)[予定]を紹介し、彼らの日本でのリサーチ活動をサポートするかたちでWWFesに接続します。

ハレル、シュパンベルクは、オーガナイザー、編集者、教育者としてもその先鋭的な活動で注目されている振付家です。レクチャーや公演などを通して、ダンス/振付概念を果敢に拡張する彼らの実験精神に触れる大変貴重な機会となるはずです。とりわけ、ハレル+ベルグによる「アドベンチャー」は、二人のリードでリサーチに基づき徹底討論、発表を行ない、ダンス/パフォーマンスを実践的に思考する画期的な教育プログラムです。

ハレル、シュパンベルクは、オーガナイザー、編集者、教育者としてもその先鋭的な活動で注目されている振付家です。レクチャーや公演などを通して、ダンス/振付概念を果敢に拡張する彼らの実験精神に触れる大変貴重な機会となるはずです。とりわけ、ハレル+ベルグによる「アドベンチャー」は、二人のリードでリサーチに基づき徹底討論、発表を行ない、ダンス/パフォーマンスを実践的に思考する画期的な教育プログラムです。

ハレル、シュパンベルクは、オーガ

ラウンドテーブル |

On The Boat

ー

身体芸術をめぐる環境への現在の認識を率直に交換する場として、キュレーター、オーガナイザー、批評家、振付家、美術家など多くの専門家が集い、対話する会議を行ないます。何にフォーカスしてダンスまたはアートをしているのか?—BALの提案から発し、インディビジュアルに社会の一員として活動するためのヴィジョンを浮かび上がらせます。

ー

[コンセプト関連テキスト]

- Whenever Wherever Festival

3年間を振り返って | 山崎広太

<http://bodyartslabo.com/about/history/>

wwfes